

「指示」は 背景
受けた時の 期限
4つの 目的
ポイント の 能率

4月分

愛社精神

4月5日

数学者の藤原正彦氏の書いた「国家の品格」という本が、今、養老孟氏の書いた「バカの壁」以上のスピードで売れているそうです。私もこの本を1日に購入して読み、社員にもお客様にも是非読むように勧めました。この本の中に「会社は株主のもの？」というタイトルがあります。「先生は、「会社は株主のもの」という論理は、恐るべきものがあります。会社は、そこで働く従業員のものです。株主は多くの関係者のつくじりの存在でしかない。ほとんどの株主は、値上がりによるキャピタルゲインを狙っているのだ。その会社に何の愛情も持たない人々です。一方、多くの日本企業の従業員はそこで長く働きますが、いつも会社のことを考えて一生懸命やっています。「会社は株主のもの」は恐ろしい論理なのです。」

私はこの文章が本当にそのとおりだと痛感しています。新聞、テレビ等のマスコミ、コンサルタント、評論家の言うことは現場を知らない、無知が言わしめているのではないかと思っていました。まさに、会津藩の教えを例にして、クケ条の最後に「なごぬことはなごぬものです」要するにこれは「内答無用」「いけなことはいけなり」と言っている。これが最も重要です。すべてを論理で説明することは出来ません。だからこそ、「なごぬことはなごぬものです」と、価値観を押しつけたのです。つまり、本当に重要なことは親や先生が幼いうちから押しつけたりいけなり、たいていの場合、説明など不要です。と言っておあげます。

4月は多くの会社で新人が入って来ます。私は、社員に会社で本当に重要な経営理念、経営方針は押しつけるべきだと思つて、実行して来ました。また社会人として必要なことは、早く技術を身に付けることではなく、人固として成長することと、技術を身に付けることは55:45位の割合ですと。社会人としてのマナー・礼儀、倫理感、道徳を欠いてはいけなりと言いつつ続けています。会社へ入った以上愛社精神を持って下さい。会社は、社員の生活を守ります。社員も愛社精神が必要です。愛社精神とは、愛する会社に対して尽くすという意味です。今、多くの会社で自己中心の人固が増え、お金を中心の持金主義が横行しています。これは時代の流れではなく、「いけな」ことなのです。「恥じずかしいことであり、「みっともないこと」です。人様に迷惑をかけないという生き方が大事です。私は社員にも退職する時には、3ヶ月前に言ってお下さいと言っています。仕事はチームワークでやります。仲間には迷惑をかけることは申し訳ない。はずかしいことだと思つてほしいです。会社、いや社長は社員に価値感を押しつけますが、その分、社長は、社員が、うちの社長は立派だ。うちの社長は一所懸命生きていると思つてくれるよな仕事のしかたをななくてはいけなりと思つています。中小企業の経営者は、社員の3倍位は働いて、汗を流して、しんどい目にあつて、自分を磨かなくてはなりけなと思います。お互いに感謝し合える関係の会社になりたいです。

古田志満